安心して歳を重ねられる地域にするために

地域包括ケアシステム

平成28年９月１日発行
高齢福祉課
229-3156　FAX229-3334

今から約10年後の平成37年には、いわゆる団塊の世代の皆さんが75歳を迎え、医療と介護に関する需要が急速に高まることが予測されています。そのため、津市では、現在の医療や介護の仕組みに加え、在宅医療の充実、医療・看護・介護・福祉の連携、認知症への対策、各地域のコミュニティの強化などを行い、それぞれの取り組みを上手に活用していく仕組み「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。

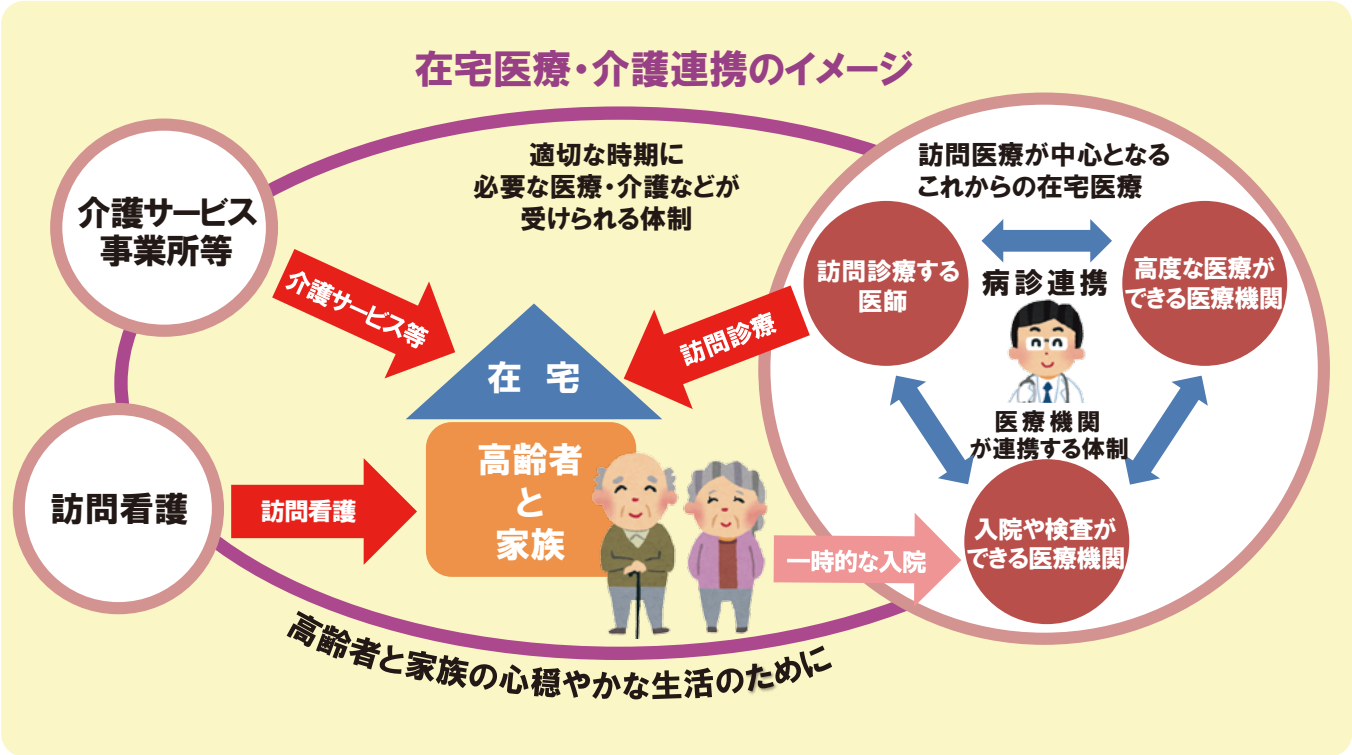
地域包括ケアシステムが目指すもの

「地域包括ケアシステム」は、これまでの介護保険サービスを継続した上で、高齢者が要介護状態になることの予防や要介護状態の軽減・悪化防止のためのさまざまな施策を講じることにより、できる限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、介護だけでなく、医療や予防、生活支援、住まいが包括的に確保されることを目指しています。

４つの柱を軸に取り組み

津市では、地域包括ケアシステムの構築に向けて、在宅医療・介護連携、認知症対策、地域ケア会議、生活支援・介護予防の４つの柱を軸に取り組んでいます。

1 在宅医療・介護連携

住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、適切な時期に必要な医療・看護・介護などが速やかに受けられる体制を整備しておく必要があります。

津市では、訪問診療・訪問看護・介護サービスなどの地域の医療・看護・介護に携わる関係者の顔が見える関係づくりをはじめ、医療施設・介護施設の情報の把握、提供を通じて必要な時期に必要なサービスが受けられる仕組みづくりに取り組んでいます。